「中学校区での交流」と「居住地交流」の取組

～つながろう　みんなと～

阪南市小中学校支援教育部会
東　千鶴子
西　　尚子

１、はじめに（阪南市小中学校の概要）

阪南市には小学校が１１校と分校が１校、中学校が５校あります。学級数は、図１の通りですが、３年前に発表した時に比べると、全体の学級数は小学校、中学校とも３クラスずつ減っているのに対し、支援学級数は小学校で２クラス増え、中学校でも以前のクラス数と変わっていません。支援学級在籍児童生徒数を見ると、小学校で１６名、中学校で４名増えています。

【阪南市小中学校の概要（２０１２年)】

	小学校	中学校
学校数	11(1)	5
学級数	133	55
支援学級数	16	6
児童生徒数	3,272	1,722
支援学級在籍児童生徒数	66	20

図１

２、これまでの取組

支援学級に在籍する子どもたちが増えている中、阪南市としても、個々の学校の活動だけでなく、他校との交流活動が大切だと考え、積極的に取組を行ってきました。

具体的には、小学校または中学校だけの交流から、校区別や市全体の小中学校の交流へと取り組んできました。また、子どもたちの余暇についても、長期休業中のかかわりや体験学習の充実、また卒業後を考えた地域での仲間づくりが重要であると考えてきました。

今回、地域の友だちとつながることをねらいとし、校種を超えた「中学校区での交流」と「居住地交流」の取組について報告します。

【これまでの取組】

- 小学校（中学校）の交流
- 小中学校の交流（校区別・市全体）
- 余暇を意識した取組
  （長期休業中の支援・体験学習・仲間づくり）

体験を通した交流は、子ども同士をつなぐ有効な手段

↓

中学校区交流　　居住地交流　　地域の交流

図２

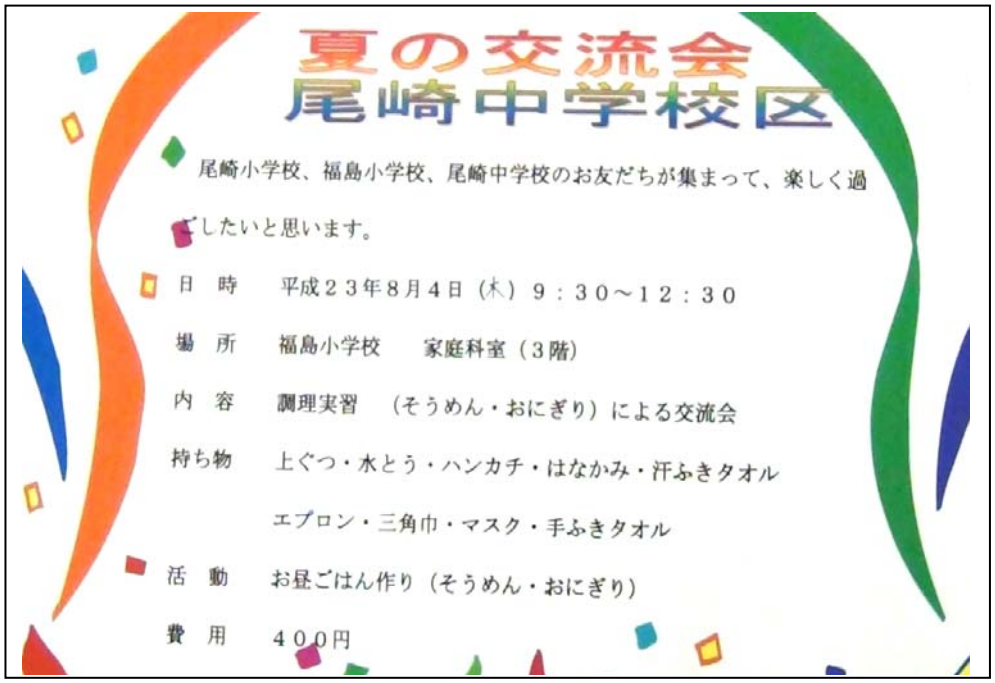
３、尾崎中学校区の取組

①夏の交流会

尾崎中学校区で夏の交流会を行いました。当時は、尾崎中学校、尾崎小学校、福島小学校の３校でした。交流会の開催校は、福島小学校でした。今年度より、小学校２校が統合されました。校舎は、昨年度の福島小学校が使われています。

図３は、交流会の案内状です。調理実習による交流で、一人４００円集金しました。

【交流会の案内状】



夏の交流会
尾崎中学校区

尾崎小学校、福島小学校、尾崎中学校のお友だちが集まって、楽しく過ごしたいと思います。

日　時　平成２３年８月４日（木）９：３０～１２：３０

場　所　福島小学校　家庭科室（３階）

内　容　調理実習　（そうめん・おにぎり）による交流会

持ち物　上ぐつ・水とう・ハンカチ・はなかみ・汗ふきタオル
エプロン・三角巾・マスク・手ふきタオル

活　動　お昼ごはん作り（そうめん・おにぎり）

費　用　４００円

図３

当日は、セミの鳴き声がうるさく、挨拶の声も聞き取れないぐらい暑い日でした。すぐに、そうめんとおにぎりの調理にとりかかりました。そうめんの具のキュウリやソーセージをみんなで切りました。それぞれ個性的な切り方をしています。そして、切った具をお皿に盛り付けました。おかかや種を除いた梅干などの具を入れた、おにぎりの大きいさもさまざまです。そうめんを、みんなで分けて食べました。全員で協力して作ることができました。校長先生にもきていただき、楽しく会食をしました。約３０人で食べました。後日「みんなで作ってたのしかった。卒業した小学校に行くことができて、なつかしかったです。ありがとうございました。」と書いたお礼の手紙が、交流会の開催校に届きました。小学校サイドからは、卒業生の成長した姿を見ることができ、中学校サイドからは、将来入学してくる子ども達の状況を把握することができたり、顔見知になれるところが良いところです。

②秋の遠足

日時は、１１月８日、場所は、阪南市山中渓の「わんぱく王国」です。目的は、遊具で遊んだり秋の紅葉を楽しんだりしながら交流の輪を広げることです。みんな、お弁当を持って出かけました。市内を走るコミュニティーバスに自分でお金を払って乗る練習も兼ねています。

わんぱく王国に到着すると、中学生が小学生をリードし励ましあいながら、頂上のわんぱく砦に向かって山道を登っていきました。わんぱく砦は、大阪湾を一望できる山の頂上にあります。山道を登っていくうちに子どもたちは、学校のちがいは関係なくすっかりうちとけていき、笑い声があちこちから聞こえるほど、みんな楽しく遊びました。大きな恐竜滑り台を、みんなで何度も滑りました。中学生と小学生がペアになって滑る場面もみられました。小学校の年上の子どもは、別の小学校の年下の子の手をひいて滑り台のすべり口まで階段を上っていきました。お弁当は、みんな近くに集まって食べました。その後、広場でゲームをしました。そして、コミュニティーバスで集合場所の阪南市役所に戻りました。市役所前で、みんなうちとけた顔の集合写真を撮りました。

後日、子どもたちは、町で出会うと声をかけあい、お互いをよく知ることができました。

４、その他の中学校区の取組

夏の交流会（カレーパーティー）は、貝掛中学校区、鳥取中学校区、鳥取東中学校区、飯の峯中学校区で行っています。

なかよし交流会など、通常の学級の子どもとの交流会もあります。

居住地交流の取組は、桃の木台小学校、朝日小学校、波太小学校で行っています。バター作りや、たいこ演奏、プールでの交流などを行います。

５、おわりに（交流の成果と課題）

①成果

このような校種間の交流を毎年重ねることは、友人関係を広げるよい機会になっています。また、友人関係を広げるだけでなく、子どもたちが見通しを持って活動する機会にもなっています。普段、クラスでは、受け身になりがちな子どもたちですが、毎年夏休みにカレー作りを行うことで、ずいぶん自分たちで動くことができるようになってきました。中学生は小学生に対し、優しく教えるなど相手に対しての思いやりの意識が育ってきています。小学生にとっても、中学生や先生とふれあうことで、進学に対しての不安が和らぎ、中学校生活に興味を持つことができています。

居住地交流では、支援学校へ入学していった子どもたちとも交流することができ、卒業後の子どもたちの様子を知るよい機会になっています。

中学校区での交流でも小中学校の連携によって、子どもを長期的な視点で見守ることができています。

②課題

交流の回数を増やしたことで、学校間の日程の調整が難しくなったことや、在籍する子どもたちの増加により、会場や内容に検討が必要になったことがあります。

しかし、人数が多くなったことは、決してデメリットではなく、子どもたちにとってさまざまな役割が担えるいい機会になっているのではないかと思います。中学生たちは、受け身で活動するのではなく、小学生に対しどのようにしたら分かりやすいかを考えて話すことができました。そして、小学生たちが喜んでくれたことで、自分たちの自信にもつながったのではないかと思います。

今後、支援学級の役割として、在籍する子どもたちが増えてきた時に、少人数で学ぶだけでなく、集団の中で自分たちができることは何かを学ぶことが、大切になってきているのでないかと思います。そのためにも子どもたちが中心となって活躍できるよう、子どもたちの意見を取り入れながら、今後も子どもたちが主体的に活躍できる交流に取組んでいきたいと思います。